

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 ポスター会場C-9

[P] 一般演題（ポスター） 「栄養・食事」

[P-129-C]

薬局管理栄養士における栄養相談にて腎機能維持及び減薬に至った事例

○三好 沙恵子, 河本 友子, 高根沢 ひろみ, 筒井 和斗, 一宮 美玲, 菅藤 玲那 ((株) ハートフルメディカル エースファーマシー)

[P-132-C]

薬局管理栄養士がかかりかつけ薬剤師と連携し急激な腎機能悪化を防止した例

○杉本 菜奈, 岡部 絢一 ((株) なの花東日本 なの花薬局昭島駅前店)

[P-135-C]

薬局管理栄養士が行政・企業・医療機関から健康増進に寄与できた事例

○土方 茉璃¹, 亀山 茜², 後藤 正子³, 工藤 菜津美³, 鎌田 弘⁴ (1. (株) サノ・ファーマシー 佐野薬局中通一丁目店, 2. 追分佐野薬局, 3. 佐野薬局四小前店, 4. 山王佐野薬局)

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 血 ポスター会場C-9

[P] 一般演題（ポスター） 「栄養・食事」

[P-129-C] 薬局管理栄養士における栄養相談にて腎機能維持及び減薬に至った事例

○三好 沙恵子, 河本 友子, 高根沢 ひろみ, 筒井 和斗, 一宮 美玲, 菅藤 玲那 (株) ハートフルメディカル エースファーマシー)

【背景】慢性腎臓病から末期腎不全に進行し、腎代替療法を必要とするケースは増加している。本症例では、慢性腎不全を疾患に持つ患者に個別に栄養相談を継続し続け、腎機能を維持しつつ、減薬に至った事例を報告する。【症例】80代女性。「カリウムが気になっており、栄養相談を受けたい」と本人より申し出があり、栄養相談を開始した。内服薬：ラベプラゾールナトリウム錠10mg、フェブキソスタット錠40mg、ドチヌラド錠1mg、サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物錠200mg、モンテルカストナトリウム錠10mg。X年12月の採血結果が、カリウム7.0mEq/L、eGFR 18.8mL/min/1.73m²、HbA1c 6.0%、LDL-C 122mg/dl、尿酸4.8mg/dlにより、ポリスチレンスルホン酸カルシウム液20%が内服追加された。同月より毎月1回、栄養相談を実施した。

【結果】X+1年8月にカリウム3.6mEq/Lへ減少したが、X+1年12月には5.8mEq/Lまで上昇。食事の聞き取りにより、冬にカリウムを多く含む食品の摂取量が増加することが判明。栄養相談を継続的に行い、X+1年4月に4.8mEq/Lに減少。また、カリメートの服用指示が朝食前により、栄養相談時に服用を忘れてしまうことが多々あることが判明。薬剤師と共有し、薬剤師より主治医に報告。夕食前に処方変更した。X+2年12月の検査値がカリウム5.0mEq/L、eGFR 26.0mL/min/1.73m²、HbA1c 6.5%、LDL-C 82mg/dl、尿酸3.8mg/dlであり、尿酸値安定により、ドチヌラド錠1mgが処方削除となった。

【考察】薬局管理栄養士が栄養相談を継続的に実施し、腎機能を維持することが出来た。また栄養相談時に服用薬の状況を薬剤師と共有でき、コンプライアンス改善に繋がった症例でもある。生活習慣病の予防・重症化防止のさらなる一助となるため、薬局の薬剤師、管理栄養士が協働し、情報提供書などを介して実施内容や患者の実行状況などについて医師と情報共有することが重要と考えられる。

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 ポスター会場C-9

[P] 一般演題（ポスター） 「栄養・食事」

[P-132-C] 薬局管理栄養士がかかりかかり薬剤師と連携し急激な腎機能悪化を防止した例

○杉本 菜奈, 岡部 絢一 (株) なの花東日本 なの花薬局昭島駅前店)

【目的】CKDの進行予防には食事療法および薬物療法が重要である。今回、薬栄連携して継続的な介入を通しCKD進行予防に寄与した例を栄養士から報告する。

【症例】ステージG4で専門医療機関未受診の60代後半男性、eGFR17.8mL/min/1.73m²。食事に無関心で自炊なく、CKD進行抑制のため、x年9月～x+1年10月に月1回減塩・減たんぱく質、減カリウムなどの栄養指導を計14回実施した。長期に渡る治療を無理なく継続できるよう鼓舞激励しながら理解度や実施度に応じた指導をし、食事に関する疑問や悩みは都度解決するように関わった。CKD進行抑制には適切な薬物療法も重要であり、かかりつけ薬剤師制度の利用が望ましいと考え、提案し承諾された。栄養士・薬剤師でセルフケア状況や指導内容等を共有し、患者のモチベーションや性格などを踏まえケアの方向性を合わせそれぞれ専門的な指導を継続して行った。患者が栄養士在籍の病院に転院し、透析を回避したまま介入は終了した。

【結果】総食塩摂取量は約13→約8gに減少した。介入中ステージG4を維持し介入前後10ヶ月間でのeGFR変化は、介入前-12.9mL/min/1.73m² (x-1年8月:30.7→x年6月:17.8)、介入後-4.9mL/min/1.73m² (x年9月:19.6→x+1年7月:14.7) で、介入後の方がeGFR増悪速度は緩徐だった。透析への不安が軽減し精神薬が減薬に、また薬剤師による提案で抗血小板薬が中止になった。

【考察】同じ担当の医療従事者が継続して栄養・服薬指導を実施することで患者の心情や信念、特徴を理解しやすく、信頼関係を構築し個々に応じた指導ができたと言える。CKDは治療期間が長く予後への影響も大きく、食事療法の厳格なコントロールが必要であり、栄養士が栄養学面、薬剤師が薬剤面で連携して患者をフォローすることでCKD患者の急激な悪化防止に期待できる。

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 〇〇ポスター会場C-9

[P] 一般演題（ポスター） 「栄養・食事」

[P-135-C] 薬局管理栄養士が行政・企業・医療機関から健康増進に寄与できた事例

〇土方 茉莉¹, 亀山 茜², 後藤 正子³, 工藤 菜津美³, 鎌田 弘⁴ (1. (株) サノ・ファーマシー 佐野薬局中通一丁目店, 2. 追分佐野薬局, 3. 佐野薬局四小前店, 4. 山王佐野薬局)

【目的】弊社は「地域の健康生活支援ステーション」を目指し、約10年前から管理栄養士を採用している。現在グループで管理栄養士23名が活動し、佐野薬局本店は栄養ケア・ステーションである。すでに薬局において栄養相談、健康フェア等での講座、特定保健指導などのサービスを展開しているが、昨今行政・企業・医療機関から管理栄養士の派遣依頼を受けている。その活動から薬局外の多くの地域・年代に必要とされており、薬剤師だけではなく、管理栄養士による地域の健康生活支援ステーションとしての機能を発揮していると考えたため報告する。

【方法】2024年度内に依頼があった（1）秋田県内各地における自治体主催のフレイル健診での栄養相談（2）男鹿市・五城目町の乳幼児健診での栄養相談（3）佐野薬局四小前店に隣接する医院で集団栄養指導を実施した。

【結果】（1）フレイル健診を実施する企業から依頼を受け、秋田県北部を中心に19会場全32回計約400名に対し運動機能チェックや口腔内機能チェック、体組成計の計測後にフレイル予防に関する栄養相談を個別に行った。（2）2会場で4、7か月、10か月、1歳6か月、3歳の月齢ごとに計22回、保健師の指導後に月齢に合わせた資料や媒体を用いて栄養相談を行った。（3）2か月に1回、計6回糖尿病患者に対して集団栄養指導を行った。延べ78名が参加し、指導後は薬局で個別に栄養相談に応じて食生活改善の動機付けに寄与した。

【考察】薬局での栄養相談はもう当たり前の時代である。薬局に勤務する管理栄養士は薬局内にとどまらず、需要が高まっているのは間違いない。普段薬局を利用しない方も、専門的な栄養指導を受けることができ、健康増進につながる。これからもより行政や企業、医療機関と連携し、活躍の場を広げていくであろう。薬局管理栄養士の活躍は目覚ましい。